

製品名: CEP350 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08663**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CEP350
別名	CEP350; CAP350; KIAA0480; GM133; Centrosome-associated protein 350; Cep350; Centrosome-associated protein of 350 kDa
遺伝子 ID	9857.0
SwissProt ID	Q5VT06
免疫原	抗血清はヒト CEP35 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 671-720

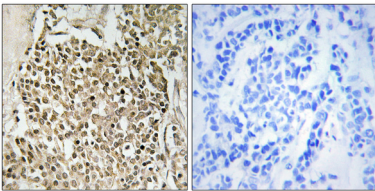
背景

中心体タンパク質 350 (CEP350) ホモサピエンス この遺伝子産物は、CAP-Gly ドメインを持つ大きなタンパク質で、細胞骨格関連タン

パク質によく見られます。コードされているタンパク質は主に中心体に局在します。中心体とは、動物細胞の主要な微小管形成中心として機能する非膜細胞小器官です。コードされているタンパク質は、別の大きな中心体タンパク質と直接相互作用し、中心体に微小管を固定するために必要です。また、核内のある種の核ホルモン受容体の調節にも関与しています。選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがいくつか見つかっていますが、その全長は解明されていません。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能：中心体に微小管を固定するために必要。微小管ネットワークの完全性に必要。PPARA を個別の細胞内区画にリクルートし、それによってPPARA の活性を調節する。PTM：有糸分裂中にリン酸化される。類似性：1つのCAP-Gly ドメインを含む。細胞内局在：有糸分裂紡錘体に関連。核内に個別の焦点として存在する。中間径フィラメントに関連。サブユニット：CEP350、FGFR1OP、MAPRE1 を含む三元複合体の一部。C末端を介してFGFR1OPと直接相互作用する。NR1H3、PPARA、PPARD、PPARG と相互作用する。組織特異性：心臓、脳、骨格筋、精巣、胎盤、肺、肝臓、腎臓、膵臓で検出される。

研究分野

画像データ



CEP350 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。